

〔嬉遊笑覽<sup>飲十上</sup>〕横谷宗珉は彫刻の名手なること世に知る處なり、烟草をすきしかど、脂のらうにつくをきらひて、日毎に三四度づゝ、らうをすげかへさせしとかや、打聞ては奢侈のやうなれど、そのらうは葭を用ひしとなむ、されどもこは一癖なり、人にすぐれたる處あるものには、かうやうのこと有ものなり、わろきくせと云にはあらず、

〔嬉遊笑覽<sup>飲十上</sup>〕きせるをきせりともいへり、佐夜中山集、金鏢は月に猶はたかやきてたばこきせりも共に新らし、昔の烟管に鏢あり、鏢は取置になる、是は吸口の席に付ざる爲なるべし、古圖に見ゆ、

## 烟管種類

○按ズルニ、烟管ニ鏢アル事ハ、めざまし草及ビ扁額軌範ニ載スル所ノ烟管圖ニモ見エタリ、〔落穂集追加<sup>六</sup>〕多葉粉初りの事

問曰、世上の貴賤上下共にもてはやす多葉粉の義は、上古來は無之物にて、近來のはやり物に有之候、由其元には如何聞き被及候や、答曰、我等若年の比、或老人の物語り仕るは、多葉粉と申者は、古來は無之所に、天正年中、切支丹宗門と申事の世に廣り候時節より、多葉粉も初る也、然ば元來は無之所、南蠻國の土産の草杯にても有之や、以前の義は、きせる杯を張り申す細工人も稀なる故、直段等も六つかしく、下々の者は、求る義も成りかねるに付、竹の筒のあと、先きに節をこめ、大きく穴を明け、先の方を火皿に用て、多葉粉をつぎ吸申由なり、其元は西國筋より、時花出し、中國五畿内にて、我人共にもてはやすなれ共、關東筋に於ては、多葉粉を給ると有之義をば、誰も不存如く有之所に、いつの程か段々と時花出し、きせるを仕る細工人杯も多くなり、竹の筒のきせる杯と申物もすたり候由、件の老人の物語仕たる事也、然ば多葉粉の時花初めは、さのみ久敷事の様には不存候なり、

## 〔續昆陽漫錄〕煙草

本草彙言曰、煙草晒乾、細切如絲、縷成穗裝入筒口、火燃吸之、と、これ今の煙管なきゆゑなり、我國に